

平成22年度第2回京都市図書館協議会摘録

○ 日 時 平成23年3月16日(水) 15時～17時00分

○ 場 所 京都市生涯学習総合センター 5階 第7研修室

○ 出席委員 青島 廣高 委員
五島 邦治 委員
齋藤 みゆき 委員
高越 恵美子 委員
直江 秀樹 委員
丸毛 静雄 委員
渡辺 昇治 委員 (五十音順) [10名中7名出席]

○ 傍聴者 1名

1 開会

中央図書館長の挨拶

2 報告事項

事務局から、次の2項目について報告

(1) 子ども読書の日記念事業について

趣旨： 子どもの読書活動は、子どもが人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであり、この活動を推進するためには、家庭・地域・学校等の連携した取組が必要である。京都市図書館では4月23日の「子ども読書の日」を中心に記念事業を実施する。平成23年度は、前年度に引き続き「親子で読書を楽しむこと」をテーマとし、各種事業を通じ、多様な楽しみを提案していく。

来年度は“親から子・孫へと文化を伝えていくこと”，“人と人との関わりを大切にしたい”などから「伝承あそび」のコーナーを設ける。

全ての催しを図書館に集中させるため、例年の「団体展示」の形態を見直し、おたのしみ会などの時に活動PRしてもらう事を計画している。

キャッチコピー： 「いっしょに読むともっとたのしい」

期間： 平成23年4月16日(土)～24日(日)

内容： 絵本作家・宮西達也さん講演会及びサイン会

「子どもの読書活動推進のための懇談会」メンバーによる活動報告

本のもりのコーナー

あそびのコーナー

読書絵はがき展

おたのしみ会等

(2) 府立植物園と図書館とのコラボレーション事業について

事業の概要

目的： 植物の研究や知識の普及のために多種の植物を集めて栽培し、展示する施設である植物園と、植物そのものは所有しないが、それに関連するあらゆる分野の資料を提供できる図書館が共同することにより、図書館とは別の施設で、本の効用を効果的に知っていただくとともに、図書館の活用を広く市民にアピールすることを目的とする。

実施日： 平成23年1月8日（土）午前9時30分

実施場所： 京都府立植物園

内容： 「木」を題材にした昔話のストーリーテリング

「木」をテーマにしたブックトーク

上記で使用した本やその他の関連図書（児童書100冊程度）の貸出し
（2冊2週間）

実績： 参加者数 50名（内児童・生徒30名）

貸出冊数 27冊（15件）

成果： 図書館が持参した100冊余りの資料を、参加者が興味深く見入っていた。特にストーリーテリングやブックトークで紹介した本は、いち早く子どもたちに貸し出された。

先生方はこの事業を好意的に捉えてくれた。図書館の棚には多くの本が並んでいて、どの本を選べばいいのか難しい。司書が選んで持っていった本は、お薦めの本で、良い本だから信頼を持って見ることができた。本を読んだ時のワクワク感と、実際の物（植物）に出会った時のドキドキ感が、一時期に体験できる効果がある。

(3) 報告事項に関する質疑応答

意見： 「子ども読書活動推進のための懇談会」メンバーによる活動報告を、図書館の児童室ですということだが、この時間帯はおたのしみ会の時間と重なることはないか。活動報告とおたのしみ会でよく似た内容がかぶさることがないように、プログラムを工夫する必要があるのではないか。

回答： おたのしみ会と報告会等は重ならないように調整している。活動報告の内容をできるだけ事前に図書館に教えてもらい、プログラムを工夫したい。

意見： おたのしみ会の前後にどういう企画をもってくるかによって、その価値が正しく相手に伝わるかどうか影響を受けることもあるので、よく考えてプログラムを作ってほしい。

意見： テーマが「親子で読書を楽しむ」ということで、対象は小学校低学年だと思うが、読書離れは中学生から高校生だと思うので、その子ども達を読書を好きになるような取組を企画してほしい。

意見： 読書絵はがき展の募集方法と展示方法を教えてほしい。

回答： 各学校に依頼を出し、各校10枚ずつ図書館に送っていただいている。

意見： おたのしみ会では、小・中学生自身が小さな子ども達に対して行うような取組はあるか。

回答： 中学生が小さな子ども達に本の読み聞かせをする取組がある。

子どもが小さい時は、保護者も読み聞かせに力を入れる傾向があるが、中学生になると本を読む子と、読まない子が二極化している。図書館としては良い書物に出会って欲しいという思いもあり、量は求めないが質の高い読書をしてもらう環境作りが大切だと思う。小さいときに本の面白さや信頼感を身に付けると、本を読まない時期があっても信頼感が蘇ってくる。

中学校にブックトークに行くなど、学校と図書館の連携を考えていきたい。

意見： 良い本を薦めるのも良いが、学校で本を読む取組では新聞や雑誌は読書の対象に入らないと言われる。新聞や雑誌も子ども達の目に触れるような、情報提供ができるコーナーが図書館にあってもいいのではないか。小さいうちから新聞や雑誌も子ども達の前に出し、本だけでなくこれも活字だと教えることも大事。中高生も含め、子ども向けの新しい本はどんな本があるか。

回答： 携帯小説も含め、今の子ども達はどんなことに興味があるのかを知らなくてはいけない。ヤングアダルトについての研修に行ったり、図書館の職員で学習会を開いたりしている。ヤングアダルトコーナーを設置するとすれば、子どもが興味を持つ本も含め、職員として出会ってもらいたい本などを置きたいと考える。子ども達は本を読む気はあるが、何を讀んだらいいか分からないと思うので、もっと日常的に興味を持ってもらえるような紹介をしたい。

意見： 子ども読書の日記念事業は良い事業だと思う。広報はどのような風になっているか。内容を聞くと、楽しそうで興味を持てる。案内をもっと具体的アピールにしてはどうか。

回答： チラシやポスターを制作している。市民しんぶん、ホームページ等に掲載している。加えて、図書館に来られた方に直接手渡しすることが大切だと思う。

意見： 小学校への案内はしているのか。

回答： 子ども読書の日記念事業について掲載している「みやこ子ども土曜塾」を全小学校に配布している。

意見： 植物園とのコラボレーションについては、植物園と一緒に取組をするというのはありがたいと思う。「私の好きな木事業」の取組は植物園が開催していたのか。

回答： 植物園は場所を提供している。実際、中心になって取り組んでいるのは京都市中学校理科研究会の先生方。年齢制限はないので赤ちゃんからお年寄りまでの方が来られていた。

意見： 惜しいなと思ったことは、外が晴れの天気なのにどうして室内でしていたのか。ブックトークやストーリーテリングを外でした方が良かったのではないか。室内ですると、外で自然を感じながら話を聞くのは違うと思う。室内だと学校の延長になる。

回答： 季節柄真冬ということもあり室内で行った。また、限られた時間を効率よく使うため、100冊余りの図書を前日から準備したということも理由の1つである。

3 協議事項

(1) これまでの協議会でいただいた御意見を踏まえて

これまでの協議会での御意見で、図書館として、広報、他機関・団体との連携、各館の特色を意識した取組、地域を支える情報拠点として多様な情報の提供の4つの大きなくりに分け、課題について議論していただきたい。

・広報（図書館のアピール、事業のアピール）

<取組の実績>

「いつだって図書館」を作成。生活のあらゆるシーンで役立つ図書館を、イラストにより分かりやすくアピールした。あなたにピッタリな本が図書館にあるということ案内した。

広報誌「京図ものがたり」を作成。生活のあらゆるシーンで役立つ図書館をタイムリーにアピールする。例えば、特集記事では「竜馬に会う」、紀行文では生活に身近にある古典の百人一首について掲載した。地域との関わりを強く意識した各館の紹介では、岩倉図書館での「赤ちゃんタイム」、「英語絵本の読み聞かせ」について掲載。地域の事情に応じて、図書館に来られた方の実態を踏まえ、その需要に応えていきたい。

「京都市図書館からのお知らせ」の配布。様々な施設やイベントで、本の紹介と、裏面に京都市の図書館の案内を掲載したチラシを配布。最近では、みやこめっせで開催された500人規模のイベント、「歩くまち京都のシンポジウム」でチラシを配布した。チラシを配布することで実際に本を借りて、見て、京都を歩いてもらうというように繋がれば良い。

テーマ図書(旬なテーマ)の展示。現在、中央図書館では地デジ化、大河ドラマ「江」、旅行、花粉症などについての本を展示している。旬なテーマを抜き出し、見えやすい形で展示している。すぐ手に取って見られるので利用者には好評。

<今後の課題>

図書館カードの登録者は29%しかいない。図書館が生活の中に入っていくために、もっと広報する必要がある。

魅力的なホームページ作りの工夫。他都市のホームページも参考に力を入れていきたい。

京都の有名人の読書体験記事を「京図ものがたり」に掲載することを検討している。

・他機関・団体との連携（コラボレーション）

<取組の実績>

学校との連携ではストーリーテリング、ブックトーク、出前貸出、学校団体貸出などの事業を実施。

府立植物園とのコラボレーション事業を実施。

市会図書室との連携による市会活動の支援を実施。市会活動を支える組織として市会図書室が設置されている。図書館法に基づいた連携、協力を行っている。市会活動

の支援を通じて京都市図書館のアピールをしていきたい。

利用方法は市会図書室への団体貸出の手法を取り、200冊以内、31日間貸出し、市議員は1人10冊以内、2週間借りることができる。レファレンスの依頼があれば右京中央図書館が対応する。貸出の利用実績は今年の9月13日から今日まで2人。

<今後の課題>

学校との連携は、実際に運営している学校の司書教諭、先生などと協議する場を作ることが効果的だと思っている。

MLA連携の実施は、市内4施設（京都市美術館、京都国立近代美術館、京都国立博物館、京都文化博物館）との連携の会議があり、そこに図書館も参加し、できることを模索している。京都市美術館、京都文化博物館で、近々開催の展覧会で、京都市図書館からのお知らせを配布する。

市会図書室では、図書館側から「司書のお勧め本」などの図書館利用の魅力をアピールする企画を検討している。

- ・各館の特色を意識した取組（各館の特化）

<取組の実績>

中央図書館では府立植物園とのコラボレーション事業を実施。

右京中央図書館では「貴重な染色図案書」の特別展示を実施。染色図案家として働いてきた方が、約400点の図書を右京中央図書館に寄贈していただいた。

醍醐中央図書館では琴と絵本のアンサンブルコンサートを実施。

岩倉図書館ではミャンマーに接するタイ北西部の様子を伝える写真展を実施。

久世ふれあいセンター図書館では冬の特別イベント「もっと本を身近に！家族で楽しむ本」を実施。これは久世の地域に伝わるお話を、久世の方が久世の地域の方に伝えるという手法で実施した。

向島図書館ではフィールドワークから、地域の勉強会へと繋がった。

<今後の課題>

各館がそれぞれの地域を知り、自館の特色をより強く意識していきたい。イベントなどの時には必ず「京都市図書館からのお知らせ」を配布し、アピールしていきたい。

京都市中央図書館30周年記念事業などを通じて、各館の成功事例をクローズアップし、司書職員30年の技能の蓄積を広く市民に発表する場を作っていきたい。

- ・地域を支える情報拠点として多様な情報の提供

<取組の実績>

地域の人と人を結びつける取組では、岩倉図書館での「えいごタイム」や「赤ちゃんタイム」などがある。

地域資料の収集・展示では、右京中央図書館の「京都大百科事典的図書館」を初めとして、各館で意識的に実施している。

利用者とともに地域を知るイベントでは、伏見中央図書館での「伏見酒蔵界隈講

会」や向島図書館でのフィールドワーク「昔の道を歩こう」などを実施。

<今後の課題>

京都ならではのビジネスマン向けの情報提供など、多様な切り口の情報発信をしていきたい。「いつだって図書館」のシリーズ化も検討していきたい。

京都が持つ“ほんもの”の情報の発信で、MLA連携による美術館や博物館の美術・芸術作品情報の効果的な提供を検討していきたい。

(2) 意見交換

意見： 広報は色々な取組をされていて良いと思う。提案だが、情報発信としてメールマガジンを出してはどうか。若い人は日常生活でメールよく使用し、中高生向けに図書館が身近になる一つの手段になるのではないか。手間はかかるがメールだと費用は安い。より図書館が身近になり、図書館カードの登録率もアップするのではないかと思う。

意見： 京都市図書館のホームページのリンク集に政令指定都市の図書館の案内が掲載されているが、1年ほど前に政令指定都市になった相模原市も掲載していただきたい。

回答： ホームページへのリンクを打診したが、応じていただけなかったものである。

意見： ホームページにアクセスして蔵書検索を行い、京都市図書館にない本が他都市の図書館にあった場合、こちらの窓口を介して相互貸借できる仕組みになっているのか。

回答： なっていない。ホームページを見るだけ。

意見： それではホームページに掲載する意味が少ないので、それよりも京都市美術館や府立植物園など、有効に情報を使える施設へのリンクに変えていったらどうか。

意見： 京都府下の図書館は一斉に検索できるか。

回答： 京都府下は横断検索ができる。

意見： 図書館の場所は地域の方は知っているが、京都に来た学生などは知らないと思う。滋賀県では車を運転していると、道路に図書館の案内の看板があったが、京都は図書館のアピールが弱いのではないか。

駐車場があるか、トイレはどこにあるか、館内の写真など図書館自体のアピールをしてはどうか。車や自転車など図書館に行く側を考えた時のアピールも大事だと思う。

右京中央図書館に行った時に入口にプリントが置いてあった。図書館の利用に関するプリントを置くのは良いことだが、少し文字が多かったので、子どもにも分かりやすいように絵を入れて柔らかい形を出してみてもどうか。

意見： 確かに利用者側の思いが足りない。利用者側から見た利便性が大事なのではないか。

意見： この図書館には赤ちゃん連れのトイレがある、駐車場の値段など、図書館に行きにくい方も来れるように施設のアピールをした方が良いのではないか。

意見： 中学校でも国民読書年として取り組んできた。学校や地域のボランティアが多くいるが、一つの図書館でまとめて情報発信ができないか。情報の共有をしたいので図書館でしていただきたい。組織作りのシステムを作り、学校との連携を充実していただけたらありがたい。

意見： 市会図書室との連携では、市会図書室の利用がまだ少ないようだが、この取組を積

極的に進めようとする理由は何か。

回答： 市会図書室は蔵書数が限られている。図書館には多くの本があり、市会図書室との連携ということでお互いに利用してもらうようアピールしていきたい。

議員からも「こんな本はあるか」などの問い合わせはある。タイムリーな情報を得るため、新聞のスクラップを見に来られることもある。実績は少ないが公共図書館の役割として、図書館にはこんな資料があるということを伝えたい。何かあった時には使っていただけるように制度を整備したものである。

意見： M L A連携で「図書館からのお知らせ」の本の選定はどのように行っているのか。

回答： 例えば親鸞展では、親鸞に関する本や当時の歴史についての本など、司書が調べて選んでいる。

意見： 京都市が行う様々な講演会の中で、「図書館からのお知らせ」を配布するかしないかはどのように決めているのか。1月に京都市主催の企業向け人権啓発講座があったが、その時は配布がなかった。講演会の情報提供があった時だけ配布する、という待ちの姿勢のように思う。

意見： 古典の日はどのようなことを計画しているか。

回答： 古典の日は図書館開館30周年記念とも重なり、古典の資料について紹介、企画展示などをする。

意見： 地域社会の大切さ、地域の活性化ということで、図書館から地域の特色を出せるような地域作りの情報を発信していただきたい。

意見： 子ども読書の日記念事業で、被災地の子ども達に来てもらってはどうか。本の楽しみを味わってもらいたい。実施するのにお金がないなら、図書館でこういうことがしたいからと、寄付を募ってはどうか。離れた場所で安心して本を読んでもらう時間を提供してはどうか。

意見： 京都市役所前駅の返却ポストの利用状況を教えてほしい。今後も設置箇所を増やす計画はあるか。選んでいる。

回答： 今月の一日の返却は平均80冊。1年半で3倍に増えた。地下鉄北大路駅にも返却ポストを設置。設置場所については本を運搬するトラックを駐車しておく場所の確保のほか、条件整備が行える所を選んでいる。

意見： 地下鉄四条駅に証明書発行コーナーがあるが、そこを利用してはどうか。

回答： 四条駅は利用が多く利便性は良いが、トラックを止める場所がない。

意見： 高槻市では、予約した本を駅近くの市の施設で受け取れるサービスを実施している。京都市も地下鉄に同じ市のスペースがあるので、有効的な活用を検討していただきたい。

回答： 図書館サービスはいかに利用者を増やすか、利便性をどう向上させるかが大事。その一環として返却ポストを設置した。貴重な提案で、十分に検討していきたいと考えている。